

# 響流

HIBIKI

高田教区報

高田教区 教化テーマ

私はどこで生きているのか  
～たずねよう 真宗の教えに～

2023年5月31日 第157号



「妙高の夏（いもり池）」

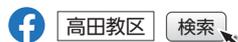
城戸真亜子（女優、洋画家）

〈個人所蔵〉

あなたは本当に  
尊いことに  
出会ったことが  
できましたか

小林 芽生 書

（新井高等学校）



高田教区

検索

発行所 真宗大谷派（東本願寺）高田教務所

上越市寺町2-24-4 ☎025-524-3913

<http://www.takada-kyoku.jp>

発行 橘 秀憲

印刷 永田印刷株式会社

## 最終号に寄せて

高田教務所長 橘 秀憲

『響流』もこれまで156号を発行してきたわけですが、教区改編で新潟県が1つの教区となり、残念ながら今号で一応一区切りということです。

教区改編ということで掲載内容も含めて再検討の新しい新潟教区の教区報へと引き継がれていくものと思います。

高田教区の教区報として、その時々熱い出来事を、その時代の編集委員により形作られ発信してきた歴史は大変貴重な財産であろうと思います。

通信媒体も進化しており、発信方法も変わっていくかもしれませんが、新潟教区の様々な出来事・情報が教区内ご寺院をはじめとしてご門徒の方々へひびき渡ることを願います。

これまで『響流』の作成に関わって来られた編集委員の皆様と各組からの通信員の皆様に心より御礼申し上げます。

## 歴代編集長より

第11組 福楽寺 井上 博

教区報『響流』は、その名の通り教区内にひびき渡り、十二分に広報の役割を果たしてきた。編集に当たっては、原稿依頼が大変だったことを思い出す。

その当時は、勿論白黒印刷であり、内容も前年踏襲が当たり前であったような気がする。しかし、4年前の第146号からはカラー化され、内容も多岐に渡り、読む者として大いに楽しませていただいている。今回で最終号となるが、何とか「地域版」として続けられないものか、御一考を。

第8組 専長寺 白鳥 顕雄

私は、副編集長2期、編集長1期の9年間務めました。当時を振り返ると、ある日編集委員会の案内が突然届き、なにも聞いておらない中出席すると、新しいメンバーでの初回の会議でした。会議の中、役員の出選となり、大丈夫だからという事で副編集長を引き受けることになりました。今思えばなにも分からない中、よく引き受けたと思います。9年間務めたことにより、寺院関係の皆さんとお付き合いが出来、色々勉強させていただいたことに感謝致します。これまで『響流』編集にご尽力いただいた皆さんに感謝申し上げます。

第1組 清雲寺 渡邊 順哲

いま思い返せば、ただ時間が過ぎただけなのですが、当時の自分とすれば、教区のみなさんに対して、教区報の役割とはなんなのか、限られた紙面の中で何を優先すれば良いのか、過ぎ去ったことの報告が大切か、それとも、これからのことに重点を置くべきか、新しい企画はないか、継続できる企画はないか等々。自分なりに精一杯、真剣に考え行動する貴重な時間を与えていただきました。ありがとうございました。

第12組 福正寺 矢嶋 一樹

私は3期編集員をさせていただきました。1期目は渡邊編集長の下副編集長を、その後は編集長を務めました。

紙面をB4からA4に変更し、多くの方に手に取って読んでいただけよう考えました。最初は自分たちで割り付け、文字数を数えながらの編集でしたが、デジタル入稿にかわり本当に作業が楽になりました。

教区内の諸先輩方にインタビューする『ひと』と寺院紹介の『クローズアップ寺院』というコーナーは大変でしたが、若僧だった自分には仕事というより教区のことを知れて勉強になり本当に楽しかったです。

編集員諸氏並びに教務所員各位の頑張りとご尽力に敬意を表し感謝申し上げます。

# 珠数つなぎ法話

第1回 金子

第2回 藤島

第3回 渡邊

第4回 比後

第5回 井上

第6回 豊島

第7回 水嶋

第8回 太西

今回 林

## 最終回 「本願の仏道」

第8組 圓性寺 林 康一朗

皆様は仏様と聞いて何を思い浮かべますか。一番多いのはご自宅のお内仏やお寺の絵や木像となられた阿弥陀様ではないかと思えます。では「仏様とはなんでしょうか」とお尋ねしたらどうでしょう。一言でいえば「よくわからない」という方が多いのではないのでしょうか。

では、「苦しみはありますか」とお尋ねしたらどうでしょう。これは自分のことですから何か言えると思えます。

私は人より悩みが強いからです。生活の中で色々と不安になり強く苦しんでいます。

一方、自分の安心のために人が犠牲になることは平気なのです。自分が高いところに立って人を見下していたいのが私の本性です。上がったりがつたりで、それがまた苦しみになります。

この苦しみが強い私をお目当てにお救いの願い、本願をたててくださいなのが仏様です。自分の力では人も自分も救う力のない私一人を救わんとされるおはたらきです。

「人間には迷いしかない」本願はそういう私の本当の姿をはっきりとお知らせくださるのです。そして、私の自分ではとれない迷いを転じて、二度と苦しみに戻らない楽、極楽の生活をこの娑婆の中でさせようとしてくださっているのです。「さわりのおおきに徳おとし」（『真宗聖典』493頁）、と親鸞聖人もいわれております。

きれいな身になってのお救いではありません。迷いの私そのままが仏様の本願のお力でお救いに転じられるのです。

私は迷いの者でしかないとは、どこまでも無明だということです。だから私に私自身を楽にする力などない。それは仏様から知らされる姿です。自分の力でわかることではありません。自分でわかることは全て迷いではないのです。

人間には仏様を信じる心はありません。それが、そのまま自分をたのんでいたことだった、全ての苦しみの元だった、と最近知らされてまいりました。私を救おうとはたられる仏様を、私が迷いしない自分に何か力があると思っただけ自分のみ、邪魔をしていたのです。

人間には人も自分も救う力などどこにもない、ということを知らせていただくことによるお救いです。だから仏様を他力と申します。私にはわからない仏様が不思議に私を救うはたらきとなってくださいているのです。このことをお聞かせいただくのが本願の仏道、と歩まさせていただきますいております。

# 今から聞けない

## 知りたいこと

⑨

### 問

本山では立教開宗八百年慶讃法要が執り行われました。簡単に八百年と言いますが、立教当時は新興宗教として、迫害を受けたのではと想像しています。

先日、NHK大河ドラマ「どうする家康」では、一向宗と家康が戦うシーンが放映され、その場面にBGMで流れた正信偈が信仰を醸し出していました。

このような迫害を受けながらも浄土真宗は、何故、民衆が受け入れ死守したのでしょうか。

民衆が求めていた信仰とは、何だったのでしょうか。

### 答

今から八百五十年前、親鸞聖人が誕生され、過ぎた平安時代の末期から鎌倉時代にかけては、相次ぐ戦乱や、飢饉、疫病の流行等で混乱した時代であり、王朝の衰退、武士の勃興という時代の変わり目でもありました。『恵信尼文書』第三通―四には、次のような記述があります。

又 このくにハ このつくりものことにそんなし候て あさましき事にて

おほかたのいのちいくへしとおほえす候中にと  
ころともかはり候ぬ(原文のまま)

※現代語訳 また、この越後の国は、去年の作物がとりわけ不作で、嘆かわしいことで、滅多

なことでは生きのびることができるとも思えません。なかにはすっかり様子がかわった所もあります。

一一九二年、鎌倉に幕府が開かれた後も政変が相次ぎ人々は安寧を求めてやまなかったことは想像に難しくありません。一方、歳月がたつにつれて仏法は廃れ、この世は限りなく悪化するという末法思想の高まりとともに既成の仏教に絶望した僧が教団を離れ、独自の信仰を説くようになっていった時代でもありました。こうした時代に親鸞聖人や日蓮上人が新しい宗派を開いていきます。南都北嶺の既成宗派から見れば当時の新興宗教ともいえます。

とりわけ阿弥陀仏の名号を称える称名念仏こそが往生極楽の道だと説く法然上人や親鸞聖人は、いわ

ば異端者として他宗から強い反発を受けることとなります。「興福寺奏状」による「承元の法難(一二二七年)などの弾圧がそれです。鎮護国家を標榜する既成宗派とは明らかに異なり、民衆仏教としての専修念仏の教えは人々に受け入れられ、次第に裾野が広がっていくのです。学問や戒律などの修行を必要としない専修念仏の教えは当時の人々に寄り添う教えであったということが出来ます。このように迫害や弾圧にひるまず、八百年の時空を超えて念仏の教えはつながってきました。この底力は何だったのでしょうか。

キーワードの一つは「勤」、訓読みでは「つとめる」「いそしむ」です。かつて「家」を意識する象徴のひとつはお内仏でした。毎朝夕、家族揃ってお内仏の前で手を合わせ「正信偈」のおつとめと仏法聴聞を生活の基本としてきた歴史があります。真宗文化と言いつても称されてきた「おつとめ」です。

二つ目は「聞」です。聞法と言ひ、聴聞と言ひ、真宗は「聞」を大切にしてきました。それは、人生の意義に目覚め、仏の説かれた法(真理)に目覚めるためです。『蓮如上人御一代記聞書』には「ただ信心は、きくにきわまることなる」(第一〇六条)「仏法には、世間のひまを闕きてきくべし」(第一五五条)など、聞法の大切さを強調する記述があります。真宗は聞法道の伝統をもった宗派なのです。

第8組 延壽寺 鷲嶺紀文

悦

# 門徒仏々 言いたい放題 最終回

近年寺院の活性化が話題となっている。

活性化の阻害要因の一つに、徳川幕府の政治において仏教の檀家制度と世襲の弊害が横たわる。この根本問題を文学作品に昇華した妙々たる小説がある。作者は文豪夏目漱石の門下生である松岡譲。越後長岡の雪深い寺院で生まれた作者は、自らを主人公にした『小説法城を護る人々』を書いた。明治・大正期の封建的な慣習を引きずる寺院の裏側を赤裸々に暴き立てる。青年の宗門と僧への憎悪と懐疑心が、信仰の無垢な情熱と交わり、厳格な父との葛藤と確執を通し描いている。父に逆らい僧籍と宗門大学を拒む主人公。敢えて東京大学哲学科を選んでいる。幼少期からの宗門への虚仮をつぶさに見てきた主人公には、宗門と寺院の古い因習の現実矛盾が看過できず、若い熱情と重なり懊悩呻吟を繰り返す。

世襲への反発は主人公の人間存在の意味を考え直す願望が込められている。江戸時代の檀家制度は各宗派を超えて寺院経営の安定を築き上げた。さらに宗門によっては寺院の世襲が確立される。一方、明治に入り仏教は大きな変革期を迎える。欧米の個人主義が浸透、信仰の自由の影響を受けた。宗門の権威と保守的な伝統の固執は、多様化する信仰心と現代の人間精神を捉えることが出来ず寺の空洞化が進んでいる。檀家制を引き継ぐ仏教は現代において主体的な思想選択と相容れない。仏教の檀家の曖昧さを指摘したい。人口減少は仏教末寺の存在を根幹から揺るがす。墓仕舞いに象徴される潮流に、門徒各々の信仰心が希薄化する傾向を強く感じる。大正期の小説が描く「信心の破綻」という問題は、自由な個人宗教の命題を浮き彫りにする。解決の道筋は現代においても見いだせていない。国家鎮護として発展した仏教は、平安末期、既存仏教に限界を感じた法然・親鸞が庶民の救済に根差した「称名念仏」を説いた。源平争乱に加え、飢饉で苦しむ

庶民に疫病が蔓延した。全国各地の河原や道端には屍骸が転がる阿鼻叫喚の光景。平和を叫ぶ現代においても、軍事侵攻を一方的に行う巨大国家が存在し、ミサイル開発に拘泥する専制国家等、戦争の無間地獄の恐怖が高まっている。弥陀の本願は「ただ念仏申す」、親鸞の救済は念仏による世俗を超える道を明示する。仏教の普遍性は自由な信仰心を育て、剩え宗門及び寺院の閉鎖性の解放に相即不離に繋がる。昔生活に根付く仏教が自由な宗教として、後世に連綿と続くよう、近代化を図る必要が急がれる。小説は解けない問題に答えを教えるより、宗門・寺院・門徒が相互の信仰心の本質を自覚する「卒琢同時」の思惑が見え隠れする。門徒仏々言いたい放題を捲し立てる。



酒呑童子

拜啓

通信員より

ねほりはほり

第1組 光照寺 梅澤 謙吾

3月、数年ぶりに走り始めた。体が重い。呼吸も苦しい。たった1kmが果てしなく長い。若くて普通に走ることができたころの記憶だけが先走りしている感じ。4月、走れないことに慣れてきた。そして、少し長い距離を少しだけ楽に走れるようになった。

皆さんさようなら。そして、今後ともよろしくお願ひします。

第2組 常圓寺 鈴木 祐恭

第2組は、4月7日に32名にて宗祖慶讃法要に上山参拝しました。

教区合併を目前に「高田教区第2組」の団体名での上山は今回が最後と思うと、高田教区を支えた先達に感謝の念を抱きつつ一抹の寂しさも覚える旅立ちでしたが、渡辺組長と旅行会社スタッフ様のきめ細かく心のこもる段取りと引率のもと、御門徒の皆様ともたくさんのお話や座談の機会を得て、あらためてご縁を結べた有意義な団体参拝となりました。

私個人は、午後の法要に先立ち拝観した京都国立博物館の親鸞聖人特別展にて、立教開宗の根本である国宝の聖人直筆教行信証に謁見し「教行信証を読んでみなさい」と800年の時を超え聖人に語りかけられた想いに駆られ、このご縁を機に

浅学菲才ながら教行信証に聖人とその教えを訪ねて行きたいと思った次第です。

最後に響流通信員として今まで皆様よりご高覧を賜りありがとうございます。

引き続き高田の地をよろしくお願ひ申し上げます。南無阿弥陀仏

第3組 正光寺 高橋 良暁

4月13、14日に高田別院の春の法要がありました。3年間にわたり猛威をふるった新型コロナウイルス感染症もようやく鎮まってきました。高田別院の春の法要も、お斎はありませんでした。が、雅楽もあり以前のような華やかで荘厳な法要になりました。

また、3組では本山の慶讃法要に、4月15日、17日と21日、23日の2班に分かれ40名ほどの方が参拝致しました。

人と会う、人と話す、人と集うという当たり前のことができなかった日々。コロナのおかげで、当たり前の有り難さに気づかされました。

今回で最終号ということで、今まで有り難うございました。

第4組 養性寺 内山 真明

4月現在、教区合併の足音はすぐそこまで聞こえてきました。

「私は通信員として何をお伝えできたのか」そんなことを考えます。

4組はコロナ禍でも若手が自由に表現をできるように住職さん達が後ろ押し、指導をいただけました。そのおかげで教化活動の可能性の幅が広

がったように思います。

何が起きるかわかりません。「今、何をやるのか」ではなく「今、何ができるのか」を大事にしていきたいです。

第5組 聴信寺 居多 啓

今年は暖かい日が多く、春の訪れも早かったように感じます。季節が移ろいゆくように、新型コロナウイルスの影響により様々な形で縮小されてきた組内寺院の報恩講も、ようやく本来の形で厳修されるようになってまいりました。

御任職を始め、法中寺院方と喜び合いました。これまで支えてこられた御門徒の皆さんも、本当に喜ばれたことと思います。おめでとうございしました。

コロナ禍という、何もかもが縮小されてきた中、行事によってはやめてしまう事もある中、形は変われども、どの御寺院においても報恩講は勤められてきたことと思います。

報恩講がそれだけ大事にされていること、そしてそれを共に勤めさせていただけの有り難さを、改めて教えていただきました。

通信員の役目もこれで一区切りとなるようです。組の通信員としては相応しくなかったかもしれませんが、これまで担当させて頂きありがとうございました。

第6組 福成寺 鎮西 広円

慶讃法要が三月下旬より、約一カ月(讃仰期間含)お勤めされました。その期間に本山の方へ団参等で伺うことが出来ました。何年振りに会ったのであ

ろう方もたくさんおられ、約束をしないでなくても本  
山で「であう」ことの大切さを改めて実感しました。  
これも一つのごびと言えらるのでしょうか。

## 第7組 願生寺

平出 文男

歴史ある高田教区報『響流』に2017年12月  
1日から新体制、淀野編集長のもと関わらせて頂  
きました。

それから公私ともに様々な行事、出来事(災害、  
疫病、戦争)、出遇い、別れなど激動の5年半で  
ありました。

ねほりはほりのコーナーでは、ほんの数行のこ  
とがいつもギリギリで最後までご迷惑をおかけし  
ました。モノクロからカラーに変わり、私が撮影  
した写真を掲載していただけて光栄でした。

新型コロナウイルスの出現により人の集まりが  
制限され、お寺同士のお付き合いもなくなってし  
まっていた間、教区報として『響流』の存在は大  
きく楽しみに見させて頂きました。

当たり前に感じていたことが、有難いと知らさ  
れたコロナ禍、日本人だけではなく世界中の人々  
がそう感じたことでしょうか。そして今戦争を目の  
当たりにして、人間としていきるとは？ 生まれ  
てきた意味は？ と問われているように感じます。  
「世のなか安穏なれ」のお言葉を大切に、新教区、  
地域社会に貢献していきたいと思えます。ありが  
とございました。

## 第8組 明岸寺

法隆 光昭

初回「法然上人門弟は、死を勧め、命以上の尊  
い価値を示す」と書いた。懐かしい。教務所の中

川氏「もっとエッジをきかせてよ」「え？これ以  
上?」。お蔭で好き放題でした。

真の仏法は、役に立たない。  
仕事もせず瞑想三昧。ついに解脱輪廻。そこに  
功德がある。

世間は役立たずを嫌う。昨今、役に立つ仏法が  
流行る。

そこに徳はあるんか。  
ある禅僧が獅子吼「食えなんだから食うな」。何  
という快い暴言。

ある真宗僧「飢えた児から食を奪う。それが如  
来の慈悲」。怒りすら覚える法語。これが言えれ  
ば「そのままの御助け」である。

仏法は無我。人間の仁義は妄念。それで、吉祥  
吉祥、大吉祥。

これにて漫語放言終わります。御堪忍頂き、あ  
りがとございました。

## 第11組 光圓寺

竹内 淳一

例えば、本願より生ずる教相と念仏信心が開発  
されますと、諸観も転生して参りましょう。

世界人間観が変わって参り、観よりは生ずる好  
き世界が開かれ、同時にまた、これまでどおりの五  
濁悪世観が、愈々、すえ通りたる濁世として身に引  
き据えて現れ直して参ります。底下の凡愚・悪人、と。

こうした現象は若き求道や回心の自身に生じた  
わけですが、宗憲、宗派諸条例や同朋会運動等、  
各種生活運動等々にその発現があり、なお片鱗か  
も知れないし、未だそれとして自らを顕現しない  
可能態にとどまっているかも知れないが、現実し  
て参る。(光圓寺HPにあつと二稿掲載します)

## 第12組 善立寺

山越 英隆

私の『響流』のファイルには1997年3月31  
日発行の第79号から綴られています。それとは別  
に一枚だけ飛び抜けて古い『響流』があります。  
昭和32(1957)年6月20日発行の『響流』の  
「号外」です。内容は新興宗教についての特集で  
すが、なかなか刺激的なものです。

昭和32年は、すでに老人の仲間入りをしている  
私が1歳の年です。『響流』がいつから発行され  
たものかは知りませんが、自らの老いに重ねてそ  
の歴史の古さを感じ、つないでこられた方々のご  
苦労に頭が下がりました。

「終わりは終わりに非ず、終わりは始まりだ」と、  
ある師が教えて下さりました。  
新たな歩みに、大きな期待を寄せています。

## 第13組 福浄寺

井上 立英

今年は桜の開花が早く、ゆっくりと花を楽しむ  
間もないままに散ってしまいました。

本山では慶讃法要が始まり、13組では第1班と  
して4月6日(木)から7日(金)の一泊二日の  
日程で団体参拝に行つて参りました。参加された  
方から行く前は新型コロナウイルスや長距離のバ  
ス移動等もあり不安の声もお聞きしましたが、本  
山に着き阿弥陀堂での参拝に「来てよかった」「ま  
た本山に行きたい」等の言葉を頂き嬉しい気持ち  
になりました。この度の法要を通して改めて教え  
に出遇える場になれたらと思っております。

最後に通信員としての目線をもって教区を見る  
機会を頂き、新たな発見や気づきがありました。  
ありがとうございました。

そうだ  
お寺に行こう

真宗大谷派高田教区寺院探訪⑥

# 高田別院

編集長が紹介

前号に引き続き、高田教区にある別院を『別院探訪』〔2012（平成24）東本願寺出版部発行〕を参考に紹介いたします。



## 鐘楼

1838(天保9)年に建立。梵鐘は1783(天明3)年に宮崎勘助氏の寄進による480貫の大鐘。先の大戦で供出したが、戦後埼玉県にて発見され、再びこの地に返る。



## 本堂

1951(昭和26)年に焼失後、鉄筋コンクリート、インド風の耐火建築として1959(昭和34)年に再建。その後、2004(平成16)年に大改修が行われ、落慶法要・蓮如上人五百回御遠忌法要がとめられた。



高田別院の前身である高田掛所は、本願寺17代真如上人の時、1730(享保15)年に寺社奉行からその設立が許可されている。

当時、江戸幕府は新寺建立停止の政策を遂行していたが、この掛所設置に向けての運動は、1722(享保7)年から8年間に及び、多くの寺院・門徒の嘆願によって設立の願いが結実することになった。1731(享保16)年、掛所設置に尽力した真宗寺良由は、幾多の苦難を乗り越えて、自坊である真宗寺の借地に仮御堂を建て、新井掛所の通所(休息宿泊所)であった稲田通所(現在の稲田支院の前身)をここに移した。1733(享保18)年7月、この通所が東本願寺高田掛所となった。頸城地方開墾の祖小栗美作の屋敷跡であり、時の高田城主榊原政永から1754(宝暦4)年に寄進された、5300坪余を境内地としている。

掛所設置の許可の後、御堂の建立は1731(享保16)年9月から始められ、1737(元文2)年に東西十四間半、南北十五間の本堂や御食堂、総門、鐘楼、宝蔵、庫裡、総会所、茶所、詰所を備えた伽藍が完成する。その後、四度の火災のたびに再建がなされ現在に至っている。

## 最後に

『別院探訪』発行の当時、宗務総長であった安原晃氏の『別院探訪』刊行にあたっての文章を一部抜粋紹介して締めくくります。



### 山門

1803(享和3)年に焼失後、1827(文政10)年に総樫の単層入母屋造で再建。2018(平成30)年大改修が行われ、落慶法要・高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要がとめられた。  
棟梁竹澤志摩則行の手による中国の故事や十二支彫刻は細部にわたって見事にあしらわれ往時の隆盛を偲ばせ、文化的歴史的に高く評価されている。



### 高田別院

高田教区  
〒943-0892  
新潟県上越市寺町2-24-4  
Tel.025-523-2465  
えちごトキめき鉄道「高田駅」  
下車徒歩15分



—このように、私自身が深いご縁を感じる新潟県の別院ですが、それぞれ非常に大切に示唆に富んだ歴史と、地域の中心的な「念仏の道場」という、別院存立の本義が示されているように思われてなりません。

真宗大谷派には、日本全国に51、海外開教区に3つの別院があります。それぞれに独自の、そして大変に興味深い沿革を有しており、いずれも地域における真宗門徒の歴史的事実があり、佛法興隆の中心的存在たれという使命が通底しています。別院の設立と変遷の歴史、それはまさしく地域のお同行の信仰の歩み、宗祖のみ教えに聞かんとする人びとの躍動のしるしなのでしょう。

—これらを見つめ直すことで、私たちの教団を支えてきてくださった先達の願いと、今日の私たちのなすべきことが、見えてくると思います。別院の「これから」は、まさに今、教団にご縁をいただく私たち一人ひとりにかかっているともうしても過言ではありません。



宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・

立教開宗八百年慶讃事業

子どものつどい in 東本願寺

くであう つながる ともにあるく

2023年5月5日(金・祝)

境内白洲には、全国から集まったスタッフが趣向を凝らした遊びやイベントのブースが設けられました。高田教区は、安塚区小黒の専敬寺境内の雪を京都へー冷たい雪の中に手を入れてカプセルを探し出す「雪中たからさがし」が子どもたちに大人気だったそうです。



## よき出会いを

響流寺のある高田教区は、2023年7月から、お隣の三条教区と一緒に、新たに『新瀧教区』になります。「教区改編」というんだ。どんな風になるのだろうと、ドキドキしている人、楽しみにしている人、など様々な気持ちで7月を迎えようとしているのではないかと思います。

みんなの生活はどうだろう。春になり、お引越しいや転校をした人、新しい学校やクラス、部活動、先輩や先生…それぞれに新しい環境での生活が始まっていることでしょう。

「その時の出会いが 人生を根底から変えることがあるよき出会いを」 相田みつをさんの詩です。人との出会、言葉との出会、自然や生き物との出会、教えとの出会…生きていくと毎日いろいろな出会がありますね。そのたくさんのお出会の中で、自分の考え方がガラリと変わったり、生涯忘れられない出来事になったりすることがあります。その時には、気にもしていなかったことが、後から自分に大きく影響を与えることも。

そついう出会いの不思議さを、仏教では「縁」と呼んでいきます。縁があるから出会いがあるんですね。

私(テラス)は、この『ココロテラス』で皆さんと出会いました。新瀧教区になると、また新たな出会いがあることでしょう。皆さんも、たくさんのお出会いを繰り返し、味わいながら、毎日を通じていってください。

高田教区 響流寺 テラス





2023 **6.25** SUN. 10:00~16:00



@E\_IKENOTAIRA  
詳細はInstagramでも  
情報発信しています

# 池の平青少幼年センター 50周年記念イベント

## [LIVE]

- ステージイベント
- 10:00 開場・オープニング
  - 10:30 <漫才法話> えしんりょう①
  - 11:00 <ライブ> マリキータ with ariko
  - 11:30 <漫才法話> えしんりょう②
  - 12:30 トークタイム
  - 14:00 <ライブ> NIGA Duo Flumen
  - 15:00 ゆるキャラと写真を撮ろう!
  - 16:00 エンディング・閉場

**マリキータ with ariko**  
上越初のフォルクローレバンドとして10年前に結成したマリキータです。昨年オーレンホールでの10周年コンサートでは大勢のお客様からエールを頂きました。可愛く羽ばたくマリキータ(てんとう虫)の演奏をお楽しみ下さい。

**坊さん漫才「えしんりょう」**  
愛知県一宮市「養蓮寺」住職の中村 亮(なかむらりょう)と、名古屋市「龍徳寺」住職の土井 恵信(どい えしん)による説法漫才コンビ。2015年3月結成。楽しい法話、何よりも楽しむ法話を目指して頑張っています!漫才、歌、法話が基本のスタイルです。

**NIGA Duo Flumen**  
Risa(マリン)と山下正樹(ツェンベ)のユニット。クラシックとアフリカンを融合させ、独自の世界観を音楽で表現。NIGAは2018年6月にオーストラリアで結成され、現在九州から北海道まで日本全国の寺院を中心にパフォーマンスを展開している。

## [50周年記念マルシェ]

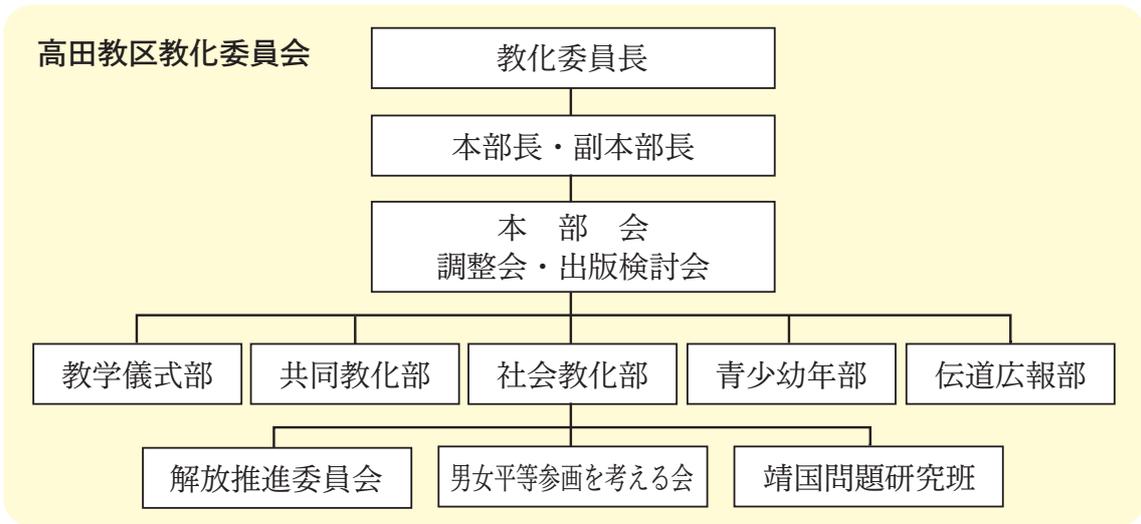
- マルシェ出店店舗 10:00~16:00
- [雑貨ブース]**  
東本願寺出版(書籍)  
おおすぎのさと(ボン菓子実演、雑貨)  
やまびこ(雑貨)  
和(なごみ)(帽子、衣類、布小物)  
handmade ゆりかご(アクセサリー)  
石ころアート~アトリエMakiko~(アクセサリー)
  - [飲食ブース]**  
もちや菓子舗(お菓子)  
大阪教区児童連盟(たご焼き)  
トラットリア・ラ・ベントラッチャ(ピザ)  
Terra(クラフトビール)  
お米カフェ結~musubi~(米粉オムレット)  
杉野沢実行委員会(軽食、ソフトドリンク)  
MYOKO coffee(コーヒー)  
小麦の奴隷(パン)
  - [遊びとワークショップブース]**  
高田教区仏教青年会連盟(こども縁日)  
三条教区仏教青年会(煩惱射的、顔はめ(パネル))  
大谷スカウト(ロープワーク)  
slowpace(竹灯籠販売とワークショップ)  
念珠ワークショップ  
with made(似顔絵とオリジナルマグカップ)

<主催> 東本願寺池の平青少幼年センター 50周年記念事業実行委員会 >  
お問合せは高田事務所 Tel 025-524-3913まで

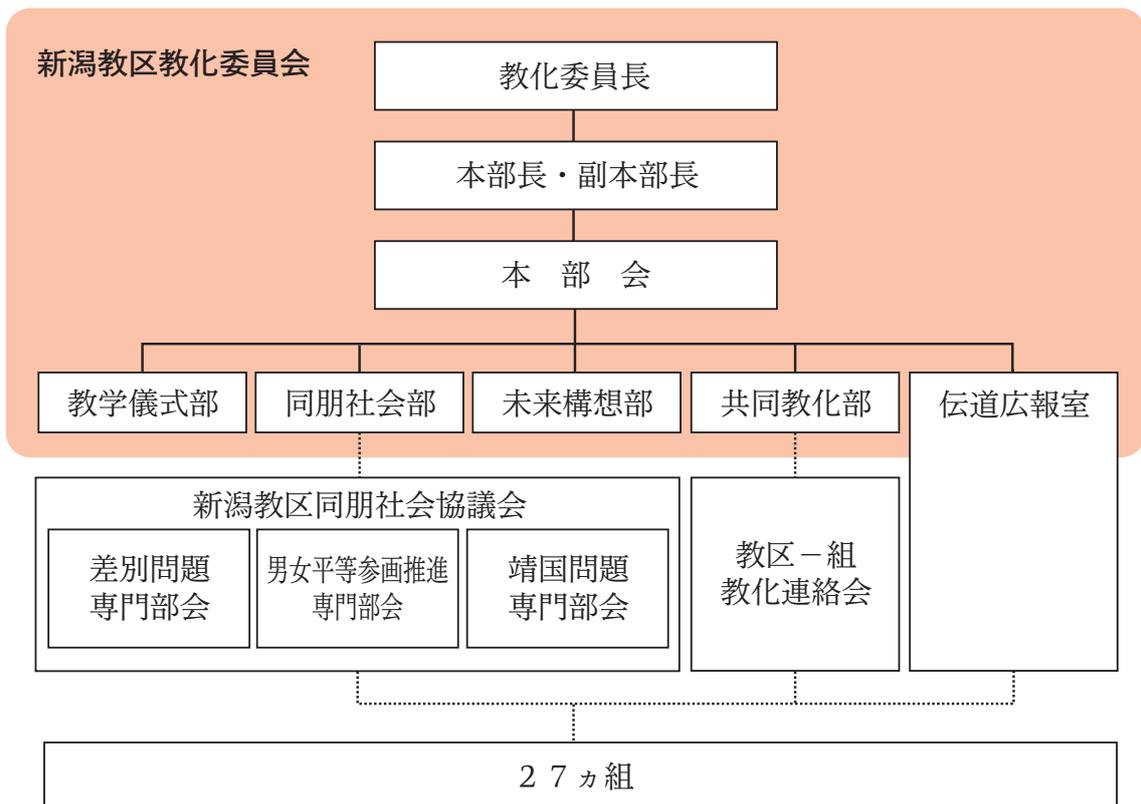
50周年記念  
池の平青少幼年センター  
南無阿彌陀仏 人生をまかすの意義をすすめていこう

# 7月からの新潟教区では…

教化の願いを「一カ寺に聞法の間を開く」「組を共同教化の基軸とする」「教区は聞法の間を開く人の育成を担い、現場の声を聞き、必要な支援を実施する」とし、3年度間はこれまでの事業を引き継ぎ、必要であれば実行委員会を設置して取り組んでいきます。



高田・新井別院、各組教化委員会、教化研鑽室、関連団体と連携を取りながら展開していく



教区諸施設・別院	
新潟教務所	三条市本町2丁目1-57
高田教務事務所(教務支所)	上越市寺町2丁目24-4
三条別院	三条市本町2丁目1-57
高田別院	上越市寺町2丁目24-4
新井別院	妙高市下町5-3
池の平青少幼年センター	妙高市大字関川2283



組名	寺院数	地域
第1組	20	糸魚川市
第2組	16	糸魚川市
第3組	13	糸魚川市・上越市
第4組	11	上越市
第5組	15	上越市
第6組	50	上越市
第7組	52	上越市・妙高市
第8組	33	上越市
高田11組	26	上越市・十日町市
高田12組	20	上越市
高田13組	36	上越市
第10組	37	柏崎市・長岡市・刈羽郡
中越11組	39	長岡市・三島郡
中越12組	17	小千谷市・長岡市
中越13組	19	長岡市

組名	寺院数	地域
第14組	28	長岡市・見附市
第15組	42	加茂市・三条市・燕市・長岡市・見附市・南蒲原郡
第16組	22	燕市・新潟市(西蒲区)・西蒲原郡
第17組	26	新潟市(西区西蒲区)
第18組	31	加茂市・燕市・新潟市(西区西蒲区南区)
第19組	31	五泉市・新潟市(秋葉区南区)
第20組	43	新潟市(江南区中央区東区)
第21組	19	新潟市(中央区)
第22組	28	新発田市・胎内市・村上市・新潟市(北区)・北蒲原郡
第23組	40	阿賀野市・新発田市・新潟市(北区)
第24組	7	魚沼市・十日町市・南魚沼市
佐渡組	32	佐渡市
合計	753	※新潟県内で真宗大谷派寺院が所在しない市区町村は、関川村・阿賀町・湯沢町・津南町・粟島浦村。

### 〈基本的な事務の流れ〉

#### ●礼金を伴う事務の流れ



【備考】

- ・高田教務事務所では、入金を伴う事務の受付はできませんが、各種申請用紙のお渡しや事務手続きに伴う相談・確認は対応可能です。
- ・入金については、直接教務所へお納めいただく他、各金融機関による振込も対応しております。振込の際は、教務所へご連絡くださいますようお願いいたします。

#### ●礼金を伴わない事務の流れ



【備考】

- ・礼金が発生しない事務については、新潟教務所・高田教務事務所のどちらでも受付可能です。

新教区発足後、「高田教務所」は「高田教務事務所(高田教務支所)」となります。それに伴い、事務の取扱いが変更となりますので、ご理解とご協力をお願いします。なお、事務取扱いについては別途「事務マニュアル」を全寺院に発送いたしますので、ご確認ください。

最初で最後の投稿いただきました

## 高田教区第12組参拝記

### 真宗縁の寺院紹介

第12組 福正寺住職 矢嶋 一樹

高田教区第12組では宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要には4月3日～4日、4月14日～16日で参拝してまいりました。これを機会に普段なかなか行けない(行かない)真宗縁の寺院に参拝してまいりましたのでいくつかご紹介します。

#### 法界寺・親鸞聖人の日野家の菩提寺

宇治の平等院鳳凰堂の阿弥陀仏と同時代の阿弥陀如来坐像で普段開帳されない国宝です(阿弥陀堂も国宝)。また、日野家歴代の五輪の塔があります。少なくとも親鸞聖人の教えを聞いている人はこのお寺に足を運ぶべきです。ところが法界寺には私たち以外の参詣客はいませんでした。境内を取り巻く壁がところどころ壊れていて経営は苦しいのだと感じました。一方、法界寺から徒歩1分のところに親鸞聖人誕生の比定地として江戸時代にお西さんが「誕生院」なる寺院を建立していますが、そちらは大型バスがひっきりなしに出入りして盛況でした。誕生院だけで親鸞聖人縁の法界寺を訪れないのは片参りではないかと感じました。



法界寺

#### 専修寺…(三重県津市一身田) 真宗高田派の本山

元は栃木県真岡市にあった寺院で、親鸞聖人の弟子の系統です。本願寺三代の覚如上人が最初望んだ寺号でもあります(本願寺は専修寺を名乗れなかった)。NHKの大河ドラマ「どうする家康」で三河一向一揆が描かれていましたが、松平元康を裏で支えていたのが高田派です。八代蓮如上人のとき、当時最大勢力であった仏光寺の法主自ら蓮如上人の弟子として合流した為、本願寺は今の全国規模の大教団になりました。加賀や越前でも一向一揆の敵対勢力に加勢していたのが高田派でした。別の機会に真宗木辺派本



専修寺

山錦織寺(滋賀県)に参拝した際、蓮如上人ご下向道中通りかかると山門を閉めて「憎っくき蓮如めっ!」と言っていたとのこと。先代の門首さんはお西からのご養子ですので今はそのようなことはないそうです。

#### 五村別院・東本願寺初代教如上人建立

教如上人が京都に戻れなかった時の本拠地として考えていた寺院であり正式名称は「東本願寺別院」だそうです。普段ご門徒にお取り持ち

ただいているので、仏具に触らなければ内陣に入っても構わないと言われて驚きました。

#### 成信坊(愛知県津島市)

「津島御坊」と名乗りを許された寺院で石山合戦と並行して織田信長と争っていた長島一向一揆関連の事象で血気盛んに突出した教如上人をこの寺の住職が身代わりになって救った(つまり住職は死亡)という寺院です。



五村別院

#### 光顕寺(岐阜県安八町)

教如上人が石田三成の軍勢に墨俣(岐阜県)で追われ逃げ込んだ寺で須弥壇の中に隠れ、「もはやこれまで」と辞世の句を残したという寺院です。結局近隣の僧俗合わせて八十名ほどが鍬や鋤、鎌を振り回し教如上人を京都まで送り届け、後に感状と直参土手組(じきさんどろてぐみ)の名を与えています。

今回の旅で、本願寺の歴史でも知っていることと知らないこと、見えていることと見えていないことが多々あるものだと感じました。京都に行かれたら是非とも「五村別院」と「法界寺」だけでもお立ち寄りください。さらに寄進をいただければ幸いです。

# こもれび

長年にわたり発行してまいりました高田教区報『響流』の最終号をお届けすることとなりました。これまで発行されてきた『響流』を拝見しますと、多くの方々のご支援によって支えられてきたことを改めて実感いたします。私自身も、最後の編集委員として参加させていただき、充実した経験を積むことができました。今後は、この経験を新潟教区での活動にも活かしてまいりたいと考えております。ありがとうございます。（上宮）

子育てに奮闘する母ちゃん目線でお子さん向けのページを担当させていただきました。高田教区のどこかにひっそりと住まう『響流寺のテラスさん』からの言葉が、どなたかのココロをテラスことのできたのでしたら嬉しいです。伝道広報部員という重責の不安と緊張は、読者の皆様からの励ましのお陰でいつしか楽しみに変わっていました。紙面作りへのご協力、ご愛読に深く感謝いたします。（浅山）

新教区の発足に伴い、今号、第157号をもって終刊となります『響流』。創刊時より、本紙に携われた多くの方々、並びにお読みいただいた皆様に感謝申し上げます。本紙も、その時々の方々の編集員方のご尽力により数十年に渡り続刊されてきたものであり、今回最後の編集員の一人となりましたことを光栄に思います。今後、新たに刊行される教区報がより親しみのある誌面となることを期待いたします。（松野）

この伝道広報部門にお声がけいただいたのは、私が尾神嶽山腹に鎮座している報盡為期碑を記録・紹介するDVD『報盡為期碑物語』を作成したことに起因しています。この中で、安塚区小黒の専敬寺住職岩崎英宣師は、大正期まで国土地理院地図には石碑のマークがあったが、いつの間にか消えてしまった。これを何とか復活したいと、述べられています。

このDVDをご覧いただいた、元国土地理院職員だった広島県在住の西田文雄氏の働きがけで、昨年2月『自然災害伝承碑』として、国土地理院の地図に報尽碑が復活したのです。

## 自然災害伝承碑の地図記号

私が担当したのは、『今さら聞けない知りたいこと』でした。前号では、教区改編について教務所長に対談形式で、取材しました。教務所長と門徒の対談は滅多にない機会なので、遠慮なく質問しました。

最後に、これまで回答いただきました住職の皆様にご礼申し上げます。（深井）

『響流』の編集に携わり足掛け七年が過ぎてしまいました。本号で長い歴史に幕を閉じます。広報誌を読んではどのように感じ受け止められたかはご寺院方及び門徒・信徒の方々の評価にお任せします。つまるところ皆様様に親しまれていかとうい命題には、正直、素朴な疑問が残ります。聖人は深山幽谷の九十九折の道を一歩の木漏れ日を頼りに修行を続けたといわれます。新教区誕生により真宗の信仰が愈々深まるようお祈り申し上げます。（清澤）



思えば遠くへ来たもんだ 入寺して15年  
思えば遠くへ来たもんだ 結婚続いて15年  
思えば遠くへ来たもんだ  
今では女房、三人子どももち  
思えば遠くへ来たもんだ  
編集員、編集長、部長で15年  
思えば遠くへ来たもんだ  
入寺からずっと『響流』『響流』『響流』  
思えば遠くへ来たもんだ  
さようなら高田教区 ありがとうございます高田教区  
思えば遠くへ来たもんだ  
この先どこまで行くのやら。  
いやいや、『響流』はもう充分です。  
ふつうの男の子に戻れます。（淀野）

